

「判断力を高める」授業実践

清水町立清水小学校 第3学年

指導者 教諭 松村 理史

1 主題

公德心, 規則の尊重 4-(1)

2 ねらい

約束やきまりの意義を理解し, 公德を守ろうとする道徳的判断力を養う。

3 資料名

「レストランで」(小学校道徳読み物資料集 文部科学省)

4 主題設定の理由

(1) 本時に関わる内容項目

4-(1)「公德心, 規則の尊重」約束や社会のきまりを守り, 公德心をもつ。

(第1学年及び第2学年)

児童が生活する上で必要とされる社会規範を守るとともに, 公德心を持ち, それらの精神を日々の生活の中に生かしていく児童を育てようとする内容項目である。主に, 第3・4学年の4の(1)及び第5・6学年の4の(1)と深くかかわっている。

児童が成長することは, 同時に社会や集団の様々な規範を身に付けていくことでもある。まず, 約束やきまりを守ることができるようにすることが必要である。その過程で公德心を養い, さらに, 社会の法やきまりのもつ意義について考えるとともにそれを遵守し, 自他の権利を尊重するとともに義務を大切にすることをしっかりと身に付けるように指導する必要がある。規範意識を児童に育てるためには重要な内容項目であるといえる。

(第3学年及び第4学年)

この段階においては, 気の合う仲間間できまりをつくり, 自分たちで決めたことを大切にすることを傾向がある。そのような発達的特質を生かし, 一般的な約束や社会のきまりについて理解し, それらを守るように指導していくことが大切である。さらに, 公共物や公共の場所とのかかわりにおいても, みんなで使う物を大切にすることにとどまらず, 社会生活の中で守るべき道徳としての公德を大切にすることを態度にまで広げていく必要がある。

【小学校学習指導要領解説 道徳編 一部抜粋】

(2) 本時と道德教育との関わり

① ねらいとする道德的価値

指導内容4-1)では、「約束や社会のきまりを守り、公德心をもつ」ことをねらいとしている。約束やきまりは、一人一人が社会や組織の中で気持ち良く生活していく上でなくてはならないものである。この段階の児童にとって身近な約束やきまりは、学級生活や授業中などの先生や自分たちで決めたルールである。時として、自己中心的な言動をとってしまい、ルールが守られない場面も見られるが、それが良くないことであり、ルールを守ることは大切であるということは理解している。しかし、公共の場所との関わりにおいて、社会生活の中で守るべき道德としての公德について、広く考えることは少なく、理解しているとは言えない。

4-1)の指導においては、約束や社会のきまりを守ることが自他の生活を気持ち良く過ごすことにつながるということについて新学期から日常的に指導しており、児童もそれらが大切なことに気付いている。約束や社会のきまりを守ることの大切さを通し、公德について考えさせることはたいへん意義のあることと考える。

② 児童の実態

(省略)

(3) 資料について

誕生日に家族とともにレストランを訪れた「わたし」が、周囲の迷惑を考えずに携帯電話で騒がしく話をしている高校生に出会い、その迷惑さに不快な思いをする内容である。携帯電話を使用する際や公共の場でのきまりやマナーを守ることの大切さに気付くとともに、今後自分自身がどのように対処していけばよいのかについて考えられるように構成されている。

5 研究との関わり

(1) 指導の要点の明確化

子どもたちは学校生活において、きまりを守ることの大切さは理解しているが、社会生活の中で守るべき道徳としての公德にまで、考えが及んでいるとは限らない。本時では、公德を守ろうとする判断には多様な考えがあることを理解し（他者理解）、身近なルールである授業や学校生活でのマナーとの関連を図りながら、約束や社会のきまりを守ることについて考えさせたい（統合）。

- 道徳教育との関連 「統合」
- 価値理解について 「他者理解（多様な考えがあることの理解）」

(2) 期待する学びの姿

本時では、ルールやマナーを守ることや守らせることについて、根拠を基に考えさせることで、公德心の大切さを考えさせ、公德を守るための判断力を養いたい。そこで、「きまりやマナーを守るっていろいろな考えがあること」「きまりやマナーを守ることの大切さ」を考えるとこの子どもの学びを想定し、以下の学びの姿を設定した。

- 期待する学びの姿①
 - ・ 「わたし」の立場になって考え、根拠を基に発表している。
- 期待する学びの姿②
 - ・ 公德心の大切さ、またそれを守ることの多様な考えについて、ワークシートに記述している。

(3) 指導方法の工夫

① 発問の工夫

身近なきまりやマナーについて発問をし、集団や社会における公德を守ることにつなげる発問をする。判断力を養うため、結論の出ていない資料を活用し、様々な考えを引き出し、多様な考えに触れることができるよう工夫する。

② 発問構成の工夫

「わたし」だったらどうするかを発表した後、もう一度考えを問い直し、再考させることで、いろいろな立場でより深く考えられるよう、発問の構成を工夫する。

③ 板書の工夫

「わたし」の心情の変化を中心にまとめ、児童が物語の要点を捉えられるよう、板書を工夫する。また、自分が「わたし」だったらどうするかについての考えを、「注意する」「注意しない」の立場に分け、それぞれの理由を比較できるように板書を工夫する。

6 本時の展開

(1) 本時のねらい

約束やきまりの意義を理解し、公德を守ろうとする道徳的判断力を養う。

(2) 学習指導過程

指導過程	学習活動と主な発問 (◎主発問)	指導上の留意点(●) 期待する学びの姿(■)
導入	<p>「きまりやマナー」について考える。</p> <p>○ 今までにきまりやマナーを守らないことで困ったことはありませんか。</p>	<p>● 児童の日常生活から想起できるようにする。</p>
展開(前半)	<p>資料「レストランで」を読んで話し合う。</p> <p>○ 誕生日のお祝いでレストランについたとき、「わたし」はどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>○ 3人の高校生くらいのお姉さんたちの大声を聞いて、「わたし」はどう思ったでしょう。</p> <p>○ それでは、「わたし」はどうすべきだったでしょう。</p>	<p>● 資料を前半部分と後半部分に分けて読み、「わたし」の気持ちの変化について読み取らせる。</p> <p>● 「わたし」だけではなく、周りのお客さんや店員も迷惑していることに気付かせる。</p>
展開(後半)	<p>自分の立場で「公德心」について考える。</p> <p>◎ もし自分が「わたし」だったら、この後どうしますか。理由も付けて、考えをワークシートに書きましょう。</p> <p>○ ワークシートに書いた自分の考えを発表しましょう。友達の発表は、自分の考えと比べて聞きましょう。</p>	<p>■ 「わたし」の立場になって考え、根拠を基に発表している。</p> <p>● 児童一人一人の多様な考えを認めながら、交流できるようにする。</p>
終末	<p>「公德」を守ることについて考える。</p> <p>○ 今日の学習で、気付いたことや思ったことなどをワークシートに書いてみましょう。</p>	<p>■ 公德心の大切さ、またそれを守ることの多様な考えについて、ワークシートに書いている。</p>

7 子どもの学習状況

(1) 期待する学びの姿①

「わたし」の立場になって考え、根拠を基に発表している。

注意すべきだと思います。なぜなら…

- 注意しないより、注意して「楽しい誕生日」にした方がましかなと思いました。
- お客さんがいやな気持ちになるし、もうここに行きたいと思わなくなるからです。
- 注意しないとだんだん声が大きくなってしまいかもしれないからです。

注意すべきではないと思います。なぜなら…

- お母さんに相談したら、ほとんどがほっときなと言うからです。
- 刺激をすると怒るから、店の人に言って席を変えてもらえばいいと思います。

(2) 期待する学びの姿②

公德心の大切さ、またそれを守ることの多様な考えについて、ワークシートに記述している。

今日の学習を振り返り、気付いたことや思ったことを書いてみましょう。

- 今日の勉強は、ちゅういするときやちゅういしないを使い分けるのがとてもむずかしいと思いました。
- 「わたし」が思っていたことはよかったことだけど、口に出したらもっといいと思いました。
- きまりやマナーを守らなかつたらこんなにいろいろな人に迷惑を掛けるんだなと思った。
- 物語を読んでいるとき、僕まで腹が立ってきました。
- 高校生のみなさんは、すごくダメだと思いました。もうぜったいに、やならいでほしいです。
- やっぱり他の人のことを考えないとだめなんだと思いました。

8 研究に関わる本時の検証

(1) 「指導の要点の明確化」について

- 日常の学校生活の中で、廊下を走った児童に対してきまりを守るように指導したが、その後再度同じようなことで指導をするということがあった。きまりやマナーを守ることの大切さを児童は日常から感じる機会はあるが、それを社会生活に結び付けて考える機会は多くない。また、約束やきまりを守ることは大切だと感じているが、なぜ大切なのかという意義を考える機会は少ない。そこで本時では、「統合」と「他者理解」という視点で授業を構想した。
- 「統合」という視点をもつことで、学校生活における約束やきまりに関するそれぞれ指導した場面を関連付けて考えさせることができた。レストランという社会生活におけるマナーについての資料を扱うことで、学校における約束やきまりと、社会生活におけるそれとを結び付けて考えさせることができた。
- 「他者理解」を視点に指導過程を構成したため、様々な意見を引き出す工夫をすることで、違った判断を引き出すことができ、子どもたちは自分と違う意見に触れることで、自分の考えと照らし合わせて考えることができた。

(2) 「期待する学びの姿」について

「期待する学びの姿」を規準に、発問したり子どもの発言を促したりすることができるので、どのような手立てが必要なのかを明確にして、授業を進めることができた。

○ 期待する学びの姿①

- 「わたし」の立場になって考え、根拠を基に発表している。

根拠を明確にして発言を促すことで、約束やきまりを守ることの意義について考えさせることができた。

「わたし」の立場で考えたのか、自分に置き換えて考えたのか明確に分けられれば、より多様な考えを引き出すことができた。

○ 期待する学びの姿②

- 公德心の大切さ、またそれを守ることの多様な考えについて、ワークシートに記述している。

きまりやマナーを守らない周りの人はどのように考えるかを交流したことで、約束やきまりを守る意義を理解させることができた。

子どもたちの判断を揺さぶる補助発問をしたことで、多様な考えを引き出すことができた。

(3) 「指導方法の工夫」について

① 判断力を高める発問

結論の出ていない資料を扱い、子どもたちの様々な考えを引き出すことで、子どもたちに葛藤を起こさせたり判断を迫ったりすることができた。

様々な考えを引き出すことができたが、どの考えがより道徳的知性に基づく良い判断なのかを整理する必要があった。

根拠を求める発言を促し、学級全体で交流することで、子どもたち一人一人によりよい判断を追求しようと考えさせることができた。

② 発問構成の工夫

日常生活におけるきまりやマナーについての考えを問う発問をすることで、資料で学ぶきまりやマナーと関連付けて考えさせることができた。

子どもの道徳性よりも少し高いと思われる資料を扱うことで、子どもたちの判断力を高めたいと考え、資料の内容を理解するための心情を問う発問で前半を構成した。

はじめは学級全体が一つの意見に偏っていたが、補助発問をしたことで、様々な考えを引き出し、よりよい根拠を追求する話し合いをすることができた。

③ 板書の工夫

登場人物の気持ちを問う発問をし、時系列で板書を整理することで、資料の内容を理解し、約束やきまりを守ることの意義について理解させることができた。

「道徳的価値の自覚を深めさせる」ために、話し合い活動を充実させる必要があると考えた。そこで、子どもの発言を板書するだけでなく、多様な考えや感じ方を引き出し、それらを分類・整理することで話し合いを充実させることができた。